

共用品推進機構だより 2016年12月16日(36)

目次

(164) 各種催しとお知らせ

▽「障害者自立支援機器『シーズ・ニーズマッチング交流会 2016』
～作る人と使う人の交流会～開催のお知らせ」

(165) 製品関連記事

▽「簡単お得シニアつかむ／NTT ドコモ、au」

(166) サービス関連記事

▽「ホンダ、羽田空港で来月 椅子型電動車の実験」

(167) 新刊紹介

▽『障害がある子どもの文字を読む基礎学習 導入から単語構成の指導』

▽『手話を言語と言うのなら』

▽『失語症の詩 失語症・片マヒ で・も・や・れ・る』

(164) 各種催しとお知らせ

▼「障害者自立支援機器『シーズ・ニーズマッチング交流会 2016』
～作る人と使う人の交流会～開催のお知らせ」

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、
シーズ（作る人）・ニーズ（使う人）のマッチング交流会を開催します。

【大阪開催】

日時：2017年1月19日（木）10時～16時

場所：大阪 マーチャンダイズ マート（OMM）

(<http://www.omm.co.jp/>)

〒540-6591 大阪市中央区大手前 1-7-31

特別企画：障害者自立支援機器の開発を考えるシンポジウム

【東京開催】

日時：2017年2月3日（金）10時～16時

場所：TOC 有明コンベンションホール

(<http://toc-ariake.jp/index.html>)

〒135-0063 東京都江東区有明 3-5-7

特別企画：障害者自立支援機器等開発促進事業 成果報告会

問い合わせ

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 谷田・篠・五島

東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 4階

TEL：03-3266-6883 FAX：03-3266-6885

<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/>

(165) 製品関連記事

▼「簡単お得シニアつかむ／NTT ドコモ、au」

NTT ドコモがオリジナルのスマートフォン（スマホ）ブランド「MONO（モノ）」を立ち上げ、「MO-01J」を今月9日に発売した。

MONOは高品質で使いやすいことをコンセプトに掲げ、機能は基本的なものに絞ってシンプルに仕上げた。

auはブランドを立ち上げている。15年7月に登場したQuaだ。最先端を追うのではなく、デザインや機能はシンプルながら使いやすく購入しやすいことに重点を置いた。Quaの第一弾の端末は京セラ製のタブレット。その後もスマホやタブレットを投入しており16年7月にはLG製のスマホが登場した。いずれも性能的には高くないが、シンプルなデザインでとがった要素がなく親しみやすいこと、安く購入しやすいことが共通点のようだ。

（日経産業新聞 12月15日2面より抜粋）

(166) サービス関連記事

▼「ホンダ、羽田空港で来月 椅子型電動車の実験」

ホンダは、空港で1人乗りの椅子型電動車「UNI-CAB β (ユニカブベータ)」の使い勝手を検証する実証実験を2017年1月中旬に実施すると発表した。羽田空港第2旅客ターミナルで空港の従業員が業務で使うほか、空港利用客に試乗エリアを設ける。

年明けの1月13～22日に、3～10台を羽田空港に配備する。ユニカブベータは椅子のように座って乗って、進みたい方向に体を傾けて重心を移動するだけで、前後左右、斜めに自由に移動できるのが特徴だ。広い空港内で従業員が使うほか、空港内の見学ツアーなどで活用することも検討しているという。

建物が広大で利用者の多い空港で実証実験をやることで、ユニカブの用途の拡大につなげる。

(日経産業新聞 12月15日15面より抜粋)

(167) 新刊紹介

▼『障害がある子どもの文字を読む基礎学習 導入から単語構成の指導』

障害がある子どもがひらがなを読めるようになるためのスモールステップの学習を詳しく解説。文字を読むのに必要な「同じ」の学習、上下左右の「空間」の学習についてもわかりやすく説明する。コピーして使う絵カード付き。

著：宮城武久 (みやぎ・たけひさ)

発行：学研プラス

本体価格：2400円 (税別)

ISBN：978-4-05-406523-9

▼『手話を言語と言うのなら』

言語としての手話の公認が世界的な潮流であるにもかかわらず、日本においては「手話は言語」という理解が進んでいない。手話の問題と、条例・法律

が取り組むべき課題を明らかにする。

編：森壮也（もり・そうや） 佐々木倫子（ささき・みちこ）

発行：ひつじ書房

本体価格：1300 円（税別）

ISBN：978-4-89476829-1

▼『失語症の詩 失語症・片マヒ で・も・や・れ・る』

失語症者にこそ、話すこと、文章が書けるうれしきや楽しきや、もう一度とりもどしてもらいたい。脳梗塞を発症し、失語症と右半身マヒになった著者によるリハビリ日記。失語症者やその家族へのエールとなる一冊。

著：渡辺鋼（わたなべ・こう）

発行：本の泉社

本体価格：1300 円（税別）

ISBN：978-4-7807-1601-6

（編集後記）

先日、鍼灸資格取得を目指して日本で勉強しているミャンマー、キルギスからの留学生に、共用品の話をする機会をいただきました。当初、「参加者は全盲、弱視の学生と近隣の視覚障害の方、それに晴眼の方もいる。留学生の日本語はまだまだ」と聞いていたので、何を教材にして、どうやって共用品を伝えようかと迷いました。説明は最小限にして、触って分かるゲームをしながら共用品をわかってもらおうなどと強引な進行を考えていたのですが、実際は日本語も堪能で、漢字を勉強し始めている学生もいました。

ミャンマーで行った不便さ調査の結果も紹介しながら学生たちの感想も聞き、あっという間に2時間が過ぎました。

多くの機会をいただいて、共用品推進機構の国際関係の仕事も広がってきます。講座の様子はブログにも載せていますのでご覧ください。

（金丸淳子）

ブログ <http://www.kyoyohin-news.org/>

公式 facebook <https://www.facebook.com/kyoyohin/>

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>

共用品推進機構公式 Facebook <https://www.facebook.com/kyoyohin/>